

# 平成 30 年度 豊中市総合計画審議会

## 第 3 回会議 議事要旨

- 日時 平成 30 年(2018 年)10 月 25 日(木)18 時 30 分～20 時 30 分
- 場所 第二庁舎 3 階大会議室
- 出席者 加藤会長、宗前委員、濱元委員、久委員、水上委員、壬生委員、宮前委員、中塚委員、  
山田委員  
計 9 名
- 欠席者 大野委員、吉原委員  
計 2 名
- 事務局 政策企画部企画調整課：榎本、佐野、東良、上野、上田
- 案件 1. 前回の振り返り  
2. 豊中市行政評価指針(素案)について  
3. 来年度の豊中市総合計画審議会の運営について  
4. 施策指標について  
5. その他
- 資料 資料 1 第 2 回豊中市総合計画審議会の議事要旨  
資料 2 豊中市行政評価指針(素案)について  
資料 3 政策評価シート(案)について  
資料 3(参考) 政策評価シート(案)について  
資料 4 政策評価シートの指標一覧  
参考 1 第 4 次豊中市総合計画(本編)  
参考 2 第 4 次豊中市総合計画(概要版)  
参考 3 平成 29 年度(2017 年度)政策評価結果  
参考 4 【答申】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画(素案)

会議録 下記のとおり

### 1. 開 会

(開会)

事務局：

(成立要件の確認)

事務局：

(配布資料確認)

## 2. 案件1「前回の振り返り」

会長：

- ・ 前回の振り返りを事務局からお願いします。

事務局：

- ・ (資料1に基づき説明)

会長：

- ・ 前回の振り返りの中で何か質問はありますか。

(質問なし)

## 3. 案件2「豊中市行政評価指針(素案)について」

会長：

- ・ 豊中市行政評価指針(素案)について、議論を進めていきたいと思えます。
- ・ 審議会として評価指針(素案)に対して答申するにあたり、どのような形にするかを決めたいと思えます。「てにをは」を含めた文言を直すのではなく、前年度に策定された第4次豊中市総合計画前期基本計画の答申のように、今回も評価指針の素案に対する意見を項目ごとにまとめて、それを答申とする進め方を提案したいと思えますが、いかがでしょうか。

委員：

- ・ 素案と答申でどう変わるのか、差を示すと理解しやすいです。

会長：

- ・ 意見項目のまとめが、それにあたります。素案を修正して答申とするのではなく、審議会が出た意見をまとめたものを素案に添付し、それを答申案にするということです。素案のような形で答申案を作るということではありません。簡単に言えば、この行政評価指針に対しての審議会の意見を取りまとめるということです。
- ・ 政策評価シートや指標については、別に意見書という形でまとめていきます。
- ・ これに関して、事務局から説明をお願いします。

事務局：

- ・ (資料2に基づき説明)

会長：

- ・ P3の下線「政策評価については、豊中市総合計画審議会で検証」は、このような表現でいいのではないのでしょうか。意見がありましたらお願いします。
- ・ P4の下線部について、「政策がどれだけ進んだかの評価」をするということで、成果指標を中心に考えていきたい、活動指標は参考程度にする、というようなことが書かれていますが、このような文言でいいのでしょうか。

- ・ 【結果の活用】の下線について、主語がないところは、主語をいれたらよいかと思います。
- ・ P6の「総合計画審議会の役割」での【対象】の下線部に関しては、評価対象を17施策とするのか、施策の方向性まで含めて51をこの審議会の対象とするのかの意見をいただきたいです。
- ・ 以上の点を中心に意見ををお願いします。

**会長：**

- ・ 評価対象について、事務局はどのようにお考えですか。

**事務局：**

- ・ 当初は審議会で51の施策の方向性を対象に評価いただくことを考えていました。全計画の政策評価のように1年ごとに2章ずつ評価していくことを考えていました。しかし、各分野別計画は、それぞれの審議会で評価しており、51の施策の方向性と重なる部分もあるので、この審議会では17施策で評価していただいた方がいいのではと、審議会の意見を聞かせていただき感じています。

**会長：**

- ・ 政策評価は、行政の自己評価であるということや審議会の役割はメタ評価であるというこれまでの議論を踏まえると、17施策の評価でいいのではないのでしょうか。
- ・ 審議会がメタ評価するためには、行政が施策の方向性、施策の評価をし、なぜこの評価をしたのか根拠を示していただきたいです。そうすれば、毎年17施策全ての評価を審議会で行えます。

**委員：**

- ・ 実施体制について確認させてください。施策の方向性は、おそらく所管する原局、原課があるもので、具体的にはそのどこかの課がやっていくことは容易に推測できますが、17施策については、どこが施策のとりまとめや評価をすることになりそうですか。

**事務局：**

- ・ まだどこの部局とは決めておりませんが、とりまとめ部局を設けて、部局間で議論し、評価シートを作成したいと思っています。
- ・ 施策の方向性においても、複数部局にまたがるものがあります。

**会長：**

- ・ つまり、とりまとめ部局は複数あるのですね。

**事務局：**

- ・ とりまとめは一つの部局です。

**委員：**

- ・ 17 施策の評価シートごとに主管課があるということですか。

**事務局：**

- ・ その通りです。

**委員：**

- ・ 行政側は、「この施策は困難な点が多いので B です」、あるいは「順調に進捗しているので A です」といった、それぞれの評価シートを単に集めて提出するというよりは、施策の方向性ごとの評価を見た上で、この施策は全体的にうまく回っているか、というような全体の評価を出し、それに対して我々は PDCA が回っているかどうかチェックするというような役割ですね。
- ・ 17 施策にすると評価数としては可能だけでも、ひとつひとつの方向性の評価を見ていかないと、うまく回っているとか回っていないとか言えないのではないかと危惧しました。
- ・ 他方、ある自治体で初期の政策評価に携わった時に事務事業評価の要素が強かったため、膨大な作業量でした。この審議会では、前回ある委員が指摘したように、PDCA を見ていくということですので、お手盛りになっていないかどうかを中心に見るといえることですね。

**委員：**

- ・ 最終的に評価というのは、行政がどのようなことをして、どの程度進行しているかの指標です。評価にエネルギーを費やしてしまったり、評価疲れをしてしまうよりは、できるだけエネルギーを温存して、実務にエネルギーを費やしていただきたいです。

**会長：**

- ・ この審議会では、PDCA が回っているかを中心的に行うので、評価対象は 17 施策でいいと思います。

**事務局：**

- ・ 先ほど委員からもご指摘があったように、17 施策だけ説明してもわかりにくいので、施策の方向性の概略を説明し、施策を説明する予定です。その中で、PDCA の観点からちゃんと書けているかどうかを評価していただければと思います。

**委員：**

- ・ せっかく 17 施策にまとめたので、ここを使ってもらわないとまとめた意味がないです。一つの考え方として、評価ではエビデンスをしっかりと書いていただきたいです。評価する側も評価した根拠がどこにあるのか、というのを押さえながら評価できます。このような形で評価をしていけば、方向性というか評価のあり方みたいなものが見えてくるのではと思います。
- ・ 今までのように下から積み上げ方式でやってしまうと、本音がわかりにくいので、評価から入って、エビデンスをつけていただくという流れでやっていただくと、効果的にできるのではないかと期待しています。

会長：

- ・ 17 施策についての評価のエビデンスを、我々が読み取れる形で文章の中に含めてください、という意見です。

委員：

- ・ 評価対象を 17 施策と決めるならそれでいいと思います。ただ、その場合もなぜ施策の評価を A や B と判断したのか、説明していく必要があります。現状の政策評価シートの施策の部分だと、エビデンスをどこに書くのかわからない状態になっています。この部分をもう少し詰めていかないと、評価対象は 17 でいいと私たちが判断するのは厳しいと思います。

事務局：

- ・ 評価シートについては、案件 3 で説明させていただきます。運営していく中で、どのようにこのシートを使いながら行っていくか、中身を含めて意見をいただきたいと思っています。
- ・ 案件 2 の指針につきましては、これまでいただいている意見で答申案をまとめさせていただこうと思います。施策の方向性ではなくて、17 施策で見ていくという点や、政策評価の【結果の活用】の下線部について、「展開」という表現ではなく、施策の方向性といった総合計画に合ったような表現にしていく等、意見をいただいた部分を答申案として、事務局案の中でまとめさせていただきます。次回に、みなさんに見ていただくための資料として出し、審議会の意見を踏まえ、決定していただきたいと思っています。

会長：

- ・ 本日出てくるかと思っていました。

事務局：

- ・ 本日の意見をいただいて、確認してから見ていただくこうと思っていました。
- ・ 指針の素案を諮問させてもらったので、指針に対する意見として答申をまとめます。それとは別に、意見集という形で評価シートや指標に関する意見をまとめたいと思っています。
- ・ ひとまずは、今までに出た指針の素案についての意見で答申をまとめさせていただきたいと思っています。

#### 4. 案件 3 「来年度の豊中市総合計画審議会の運営について」

会長：

- ・ 運営というよりはむしろ、評価シートをどういうもので確定するか、議論したいと思っています。

事務局：

- ・ (資料 3 に基づき説明)。

会長：

- ・ 最初の 1-1 の例で、このような評価シートが 17 枚あるというイメージで、最初の施策シートをどのような形にしたらいいか、良い意見があればください。

**委員：**

- ・ 施策シートはきちんと作り込む必要があります。
- ・ 主管課で施策の方向性での様々な事業を評価した上で、施策についてはどう考えているのかを討論し、それをまとめる過程が非常に重要だと思います。
- ・ 今の原案であると、施策の方向性ごとにBとかCといったアルファベットが出てきます。施策の総合評価としてはAと出てきても、それは自己認識にすぎないので、どのように判断したのかというサマリーがあった方がいいと思います。
- ・ 施策の方向性のシートを見ると、1つ目に今まで実施したこと、2つ目に問題点、3つ目に今後の方向性を記述するということだと思います。PDCAを見ていくということにおいては、問題点や今後の方向性の指摘が鋭いか、あるいは正直であるか、妥当であるかという点を見ることが重要です。そういった点を統合した施策に対する自己評価が施策シートにきちんと書かれていないと、評価委員としては評価し難いです。

**会長：**

- ・ 現状の改良案としては、アルファベットの並べではなくて、エビデンスを文章で書いてほしいということです。
- ・ 施策の方向性のシートは、文章中心で指標が並んだものになっているが、それを取りまとめた施策シートには、エビデンスに記号が入ってもいいが、わかりやすく書いてほしいということです。PDCAがどうなっているかということに着眼点をおいて、書いてほしいということです。

**委員：**

- ・ うまくPDCAが回っていないので改善が必要だと認識している場合、2ページ以降の施策の方向性ごとに見ていくと、確かに良くないけれども、その状況に気がついて、対処しており、その方法も妥当であるならば、状況は良くないけれどもPDCAは回っているという判断になります。
- ・ 例として出ている子育て支援の最後のシートを見ると、がんばったので良い結果が出ているけれども、需要が新しく生まれてしまうという恐れがあるから、Bとつけているのですが、私はAでいいと思いました。他方で、主管課がBと判断した根拠を明記していないと、17の施策に対する評価はしにくいのではないかと思います。
- ・ 施策の方向性が、B,B,Bだったら施策もBといった評価ではないはずであり、Bだと判断しているその判断の健全性をチェックしていくのがこの審議会の役割です。
- ・ 施策の方向性について、検討した経緯を数百字でも率直な検討結果が書いてあれば、その内容できちんとチェックしているのがわかります。

**委員：**

- ・ 資料3の一番後ろのページについてです。私は不動産鑑定評価をやっており、評価書を作ります。その時に評価額というのを最終的に出すのですが、評価額だけを見る人もいれば、なぜその価格を出したのか根拠を見ていく人もいます。さらに、どのような資料に基づいて評価しているのかということまで求める人もいます。人によって見る点は様々で、しっかりと

評価額を求める場合では、価格を査定した根拠を必ず書きます。それと同じで、やはり総合評価をBとした根拠を書くことが重要です。

- ・ 次に、施策の方向性が3つあると思いますが、その1~3をどのように関連づけているのかという点を書いてもらうのも重要です。なぜこの施策の方向性がBなのかと思った人は、それぞれの方向性の評価シートも見ていきます。
- ・ シートの見方は人それぞれであることを踏まえて、評価シートを作成していただきたいです。

**会長：**

- ・ 17施策の評価を公開するにあたって、事前にこの委員会が検証しましたとなるのでしょうか。ここで検証をした結果、問題ありと出た場合、どのような形式で公開するのですか。

**事務局：**

- ・ 現在のスケジュールでいきますと、行政による自己評価の段階のものを公表しています。その後に、次年度に活かしていくために、審議会で確認していただく形で考えています。

**会長：**

- ・ それは次年度の施策に活かすという意味でいいのですが、具体的な内容は公開されますか。

**事務局：**

- ・ 今のところは市民向けの公表は考えていません。
- ・ 審議会で言われたことにつきましては、事務局でまとめた上で、各部局に返して、次年度に活かそうと考えています。

**会長：**

- ・ そうであれば、この審議会での評価をまとめる必要はないのですか。

**事務局：**

- ・ 諮問書、答申書という形では考えていません。評価結果の報告書をもって説明させてもらい、それに対していただいた意見を事務局でまとめ、まとめたものは各部局の調整に入る際に使おうと思っていました。

**会長：**

- ・ 行政事務としてはそれでいいです。事務局がA、Bと付けた評価シートが公開され、それに対して審議会の検証行為として何をしたのかというのは議事録でしか残らないのですか。

**事務局：**

- ・ その通りです。今は議事録だけです。

**会長：**

- ・ 次年度の施策に、どの意見を取り入れる、取り入れないというのは、形に残らないのですね。

## 事務局

- ・ いただいた意見につきましては、各部局にフィードバックするとともに、審議会でどのような意見をいただいているのか、どのような改善点が必要なのかという点は、市民のみなさんに公表していくべきと思っています。その出し方、まとめ方については検討させていただきます。

## 委員：

- ・ 指針の1ページ目の初めにPDCAサイクルとあります。検証はチェックに相当するが、この委員会の検証はここでのPDCAサイクルに入るのですか。

## 会長：

- ・ PDCAに沿って評価されているかどうかを、メタ評価としてみていきます。

## 会長：

- ・ 方向性の評価をもとに機械的に評価をするのではなくて、この審議会では方向性の評価がB, B, Bでも施策はAやCという評価になりうるという評価形式を進めたいということであれば、評価のエビデンスをきちんと書いていただきたいです。

## 事務局：

- ・ 施策シートは、ご指摘いただいたように、各部局の話し合った内容を書かないと、判断していただきにくいと思います。それを補う部分として、施策の方向性については概要を説明した上でこの施策シートを見ていただき、審議会の中で話し合ってもらおうと考えています。

## 委員：

- ・ 人によって読み取り方は違うので、コメント欄を設けた方が自己評価に対する誤解が少ないのではないかと思います。
- ・ パブリックコメントは受けるのですか。

## 事務局：

- ・ 評価について、パブリックコメントは受けません。

## 会長：

- ・ 評価の検証をするということは、PDCAの観点から翌年度の施策に活かすということです。

## 事務局：

- ・ 第3次では答申書に出た意見につきましては、次の年度の初めの審議会で、どのような形で意見を生かしたか報告をさせていただいていました。

## 委員：

- ・ 審議会での検証の結果を、翌年度の施策に活かすと言っていたのですが、そうすると審議会の



開催スケジュールはどのように考えていますか。答申書に関してはこれでいいかと思いますが、作業量や気になることがあるのでわかる範囲で教えてください。

**事務局：**

- ・ 開催スケジュールですが、政策評価については5月末～6月上旬にまず自己評価したものを公表したいと考えています。
- ・ 審議会は7月頃から年内中に計4回ほど開催したいと考えています。事務局では、2つの部会に分けてそれぞれの担当を、3章、5章、リーディングと1章、2章、4章に分け、前者は8項目、後者は10項目を評価していただくことを想定しています。
- ・ 1回目は全体会をし、今回の政策評価結果について全体的な話をさせてもらい、その後の部会については2回開催して、4～5項目ずつ評価いただきます。4回目は全体会をし、それぞれの部会の報告をするという形でまとめていければと考えています。

**委員：**

- ・ 翌年度の予算編成には間に合わないのですか。

**事務局：**

- ・ スケジュール的には、予算編成の前までに審議できれば、反映できると考えています。

**委員：**

- ・ 資料2のP7の、「C・A」と「P」の間の線引きされた時期が評価書の公表ということですよ。審議会はその後、半年近くかけて審議していくので、審議会の結論そのものは予算編成に反映しにくいと思います。一方、ヒアリングと政策会議、予算編成の過程がありますから、予算設定はまた別のロジックで動いていると思いますが、行政として、行政評価は予算設定のエビデンスの一種として取り扱っていると理解してよろしいでしょうか。

**事務局：**

- ・ 予算編成の根拠として活用できるよう、このタイミングで公表を予定しています。
- ・ 行政としてはPDCAが回っているから、今後このような展開をしようとしている中で、審議会で見えていただいた時に、審議会としては、ここはPDCAが回っていないのではないかと、という意見が出た際に、どこまで部局に返して、予算に反映できるかというところです。

**委員：**

- ・ 担当課としては、書いた評価は審議会にチェックを受けるという側面と、財政課でチェックを受けるというふたつの側面があると考えればいいですか。

**事務局：**

- ・ その通りです。特に新規拡充事業であれば、庁内の中で政策会議にかけて、市長をトップとすることで議論していき、それに基づいて予算編成が動いていくという形です。

委員：

- ・ 予算編成のツールとしては使われているということですね。

会長：

- ・ 政策評価結果に基づいて予算編成や政策会議が進んでいくということですね。それが前提で、仮に問題があるとすれば、1年遅れで指摘され、2年目は何らかの形でフィードバックがあるということですね。

委員：

- ・ 自己評価でPDCAを回すことが非常に重要なので、そこできちんと回っていれば、審議会の意見が来年度の査定にそれほどかかわらなくても問題ありません。
- ・ 財務部の部長や課長にこのようなディスカッションを聞いてもらったらいいと思います。我々の意見がストレートに財務に伝わるし、そうしないと財務が別の判断をしてしまうと、担当課は困ったことになります。そのあたりの工夫があればいいと思いました。

会長：

- ・ 他に意見はありませんか。

(意見なし)

## 5. 案件4「施策指標について」(資料3、4)

会長：

- ・ 資料4について事務局より説明をお願いします。

事務局：

- ・ (資料4に基づき説明)

会長：

- ・ 施策の方向性ごとに評価していただく現場の指標、だいたい5個までというイメージがひとつ、南部地域の活性化については約7個の指標を考えておられるということです。

委員：

- ・ 第4章の共に生きる平和なまちづくりを見て、(2)では、同和問題をうたっておきながら、部落問題の指標が一切入っていません。どこで豊中市は確認しようとしているのですか。部落問題の理解が深まっている等、そのあたりが抜けているのではないかと思います。
- ・ 上記の関連で(2)③に事業者学習会が出てきていますが、広く市民向けではなく市に関わる事業者の学習会に限定しているのはなぜですか。

**事務局：**

- ・ 1 点目は、豊中市の人権まちづくりセンター等で部落問題に限ってではなく、広く人権について相談を受けているというところが、②の「総合生活相談件数」で網羅されています。いただいた意見を含めて、担当課に確認します。
- ・ 2 点目については第 4 回目の審議会でお答えします。

**委員：**

- ・ 他市の状況も調べてみましたが、同和問題に関する学習会の参加者数を指標のひとつに掲げています。それを含めて検討していただければと思います。

**会長：**

- ・ 学習会を開いているのですか。

**事務局：**

- ・ 担当課に確認いたします。

**委員：**

- ・ 第 1 章 2、3 の部分ですが、2 (2) ③「自分には良いところがあると思う生徒」となっていて、これはよく自己肯定感として指標になりやすいと思いますが、ぼんやりした概念で、学校教育に起因するものなのか、家庭・地域に起因するものなのかわかりにくいところが課題です。この指標でもいいとは思いますが、例えば、全国学力学習状況調査の項目の中に「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目があり、それは子どもにとって学校環境がどのように見えているのかにつながるので、こちらをおすすめします。検討いただきたいです。
- ・ その場合、中学校 3 年生だけでなく、小学校 6 年生の児童も対象に含めた方がいいです。
- ・ ⑤で不登校児童・生徒の学校復帰率とありますが、数値として現われにくいので確認、把握が難しいと思いますが、あえて「学校復帰率」を指標にしようと思った理由があれば教えてください。

**事務局：**

- ・ 指標の設定の仕方、選び方について、総合計画の施策の方向性ごとにある主な取組に対応するものを選んでいきます。
- ・ 「自分には良いところがあると思う生徒」を選定させていただいたのは「①確かな学力と体力の向上、豊かな人間性の育成」の「豊かな人間性の育成」のところで、以前あった指標がなくなったため、担当課にそれに代わる指標として挙げてもらいました。今いただいた意見を担当課に伝え、検討したいと思います。

**委員：**

- ・ その下の 3 (2) ①ですが、(2) は「社会的援助が必要な子ども・若者への支援を充実します」です。児童虐待相談件数が指標となっていて、施策の充実をはかるのに児童虐待相談件数が対応するのかなと思います。施策の充実と相談件数の増減の関係がどうあるとよいのか説

明をお願いします。

**事務局：**

- ・ ご指摘の通り、社会情勢として数値が増えているということや、また子ども相談窓口等を設置して、子どもからもフリーダイヤルで相談を受ける取組によって、件数は増えています。担当課の悩みとして、件数が増えた方がいいのか、減った方がいいのかといった点があります。例えば、行政としてこの5年間はしっかりと全部拾い上げるために、いろいろ手を打って件数を増やしていく、という点を評価することもできますので、そのあたりをどのように評価していくか、担当課へ返したいと思います。
- ・ 他市を見ますと、最初に相談窓口を設置した時には件数が増えて、その後は下がる、というような指標目標を設定している市もあります。確かにケアをすることで、より相談件数が減ってくるという方が最終的には目標として合っているのかもしれませんが、今の社会状況を考えると、5年間はより多く啓発しながら相談を聞いていくというところに主眼を置いてもいいかなということで、この指標を設定してもらっています。

**委員：**

- ・ 出てきた数値をどう読むかというのは難しいところですね。

**会長：**

- ・ どう読むかが、PDCAのアクションに結びついていくのでしょうか。

**委員：**

- ・ 一般論としては総じて工夫をされていると思います。他方で正面から扱おうとする傾向が強いので、環境系や土木系の指標は堅いという印象を持ちました。保健医療・福祉系は良い指標だと思います。
- ・ 言いたいことは2点あります。一つは、メジャーではないがある種の現象を表す数字をいくつか組み合わせると全体の動きをとれるので、そういった外れ値のような指標も入れてはどうかということです。例えば、医療の場合だと、国の医療状況を把握する際には、一つは平均寿命を指標として使います。ただ、平均寿命は栄養状態などによって実現しているかもしれず、医療環境が充実した結果とは言えないので、もう一つは赤ちゃんの死亡率で取ります。そのふたつを組み合わせれば、充実した医療ネットワークができていますと判断できます。つまり、ひとつの指標で全体を表さなくてもいいということです。リアリティを重視してほしいということが言いたかったことです。
- ・ もう一つは、南部に特に多いですが、主観指標だけで取らない方が良いということです。障害の指標では差別されていないと感ずることが重要なので、そのような主観指標を取ることには重要です。一方で、今さら引っ越せないと思っている人が住み続けたい、と言っている数字が出てきた場合に、それは良い指標とは言えません。主観指標を取るしかないという事情もわかりますし、データの収集コストも無視はできないので、活用できる範囲でいいです。例えば、庄内駅の乗降客数はなかなかいい指標です。他には、店舗が減っていないかどうか等、スーパーではなくて普通の食料品店が減っていないか、というのも一つの指標になるの

で、主観指標に頼りすぎないということも重要です。南部地域については、もう少し客観的な指標があればよいです。

- ・ 犯罪についても一見増えているが、実は重犯罪と軽犯罪では違います。自転車窃盗は良いことではありませんが、自転車窃盗が多いというのは、体感として治安がそれほど悪くなっている感じはしません。しかし、もしも泥棒が多いというのはよくないので、そのへんのデータのとり方に工夫も必要です。現場に携わっている人たちのリアリズムを大切にする事業であってほしいと思います。自分達が現場の感覚として、その指標で評価されるのであれば当然という指標を設定していただきたいです。

**事務局：**

- ・ 南部地域で設定している一つ目のところで、「住み続けたい」と思う人の割合は、全市的には平均 85.6%が「住み続けたい」と思っており、南部地域についても 81.8%の方が「住み続けたい」と思っている状況です。そう思う理由の要因分析をしており、全市では、「買い物等日常生活に便利だから」ということと、「今の住宅に満足している」が多いのですが、実は南部地域については、今まさに言っていたとおおり、「自分が生まれ育った所だから住み続けたいと思う」という割合が多いです。主観指標についても要因分析をしていきたいと思いません。

**委員：**

- ・ 南部の指標は都市計画課と相談して決めているのですか。

**事務局：**

- ・ 事務局のみで決めています。

**委員：**

- ・ 都市計画マスタープランや、立地適正化計画でも南部地域は重点地域になっているので、その指標もあります。覚えているところで言うと、市全体の人口増加率と南部地域の人口増加率の割合があります。原案では、南部地域だけを見ていたのですが、全国でも市全体でも下がっているときに、南部だけを見てもだめだ、ということで、工夫して割り算で出すようにしました。もうすでに使われている指標もあるので、そのあたりは相談して整合性が取れるようにしていただきたいです。

**会長：**

- ・ 都市基盤や住環境の形成のようなものも南部活性化プロジェクトの中に入れ込んだ方がより施策評価につながるのではないかと指摘はもつともです。
- ・ 活性化というと、一番出てくる指標は地価です。行政としては出しにくいかもしれませんが、地価をなんらかの形で指標に入れてみてはどうでしょうか。

**委員：**

- ・ 南部活性化のプロジェクトですが、年少人口は書いていますが、生産年齢人口も必要と思います。
- ・ ⑥は「活性化していると思う人の割合」ではなく、実際の商業と工業の分布を具体的に出した方がよいのではないのでしょうか。現状の指標はあいまいです。
- ・ 生活保護の方がどれぐらい分布されているか、生活保護の受給率もおさえるべきではないのでしょうか。

**会長：**

- ・ 総合計画のP101を見ると、プロジェクトの方向性と目標は簡単にしか書いていません。主な取組み1、2、3、に対応した指標に限るとなかなか難しいと思います。

**委員：**

- ・ 地価の増減を見る際に、よく見るのが人口の増減です。常に人口が増えている所はやはり不動産の価格は上がっていき、減る所は下がるは大前提です。次に見るのが乗降客数や住宅着工戸数です。あとは店舗の出店動向などを総合して不動産の価格を求めます。不動産の価格を出すのが困難な場合は、住宅着工戸数などの指標を見るのも一つの手です。

**委員：**

- ・ 社会問題になっている空き家の戸数は出しにくいですか。

**事務局：**

- ・ ざっくりしたデータになってしまい、南部に限ってということは出しにくいです。

**委員：**

- ・ 出しにくいというか、外におおっぴらにするデータではない、というイメージですかね。

**事務局：**

- ・ 空き家というのは、いろいろな種類の空き家がありまして、豊中市では流通する空き家が多いと言われています。

**委員：**

- ・ それを指標として取るのは違うということですか。

**事務局：**

- ・ 取りやすいデータではありません。

**委員：**

- ・ 4章の2と3は指標を選ぶのが難しいと思いながら見ていました。特に4-3-(1)の生涯学習です。挙げている指標が図書館に関するもの3つで、偏って見えてしまいます。市の方針とし

て、図書館を今まで以上により充実させたいということであれば、それでもいいと思いますが、計画書を見てもそこまでの書き方をしていないし、実際に取り組まれている事業を見てもそれ以外の事業にも取り組まれています。これからは図書館や公民館のプラスアルファをどういうふうに広げていくかという点が大事になってきます。実際に数値化するのはとても難しいと承知していますが、指標を偏らせないで、今実施している施策を幅広く検証できるような指標の選び方をした方がよりよいと思います。

**会長：**

- ・ 市民文化の創造、あるいは健康と生きがいはもう少し幅広くとらえてください。

**委員：**

- ・ 4-1- (4) 「多文化共生のまちづくり」も4つのうち3つが国際交流センター事業になっています。外国人市民ともっと広く考えたら、他の指標もありえるのではないのでしょうか。
- ・ 4-1- (4) ②はわかりづらいです。外国人の案内、相談、翻訳件数というのは、通訳の人が配置されていることだと思うのですが、もう少し考えられるのではないのでしょうか。

**委員：**

- ・ 今取れる指標で取っていると思います。実はこれからは取らないといけない指標があるのではないのでしょうか。4-1-(4)を確認したのですが、例えば、外国人の方の就業者数みたいなものを追いかけていかないといけないかもしれません。今まであまり取ったことがない指標なので出てこないと思いますが、商工会議所とタイアップして各事業所が外国人労働者をどれくらい雇っているかということを毎年集計してもらおうと出てきます。そのような形で、今既存の指標を用意するだけでなく、逆に取るべき指標を考えていただいて、これから毎年取っていくという姿勢も必要です。

**会長：**

- ・ 指標の開発をするということです。今ご指摘いただいた外国人就業者数では、それによって外国人の研修制度などが大きく変わります。そういうものは、政策の対象にするべきです。

**委員：**

- ・ 今外国人は何人くらいですか。
- ・ 外国人の数や就業者数は、指標としてあったほうがいいのではないのでしょうか。なぜなら、日本の社会は人口が減っていき、労働を担う人が減っていくので、老人か外国人を雇わざるを得ないからです。

**会長：**

- ・ 必要な指標は最低限開発するという姿勢も必要です。今あるものだけではよしとしないでください。
- ・ 指標は最終的には来年の報告書の中で確定したものが出てくるのでしょうか。

**事務局：**

- できるだけ今日いただいた意見を取り込めるところは取り込んでいきたいと考えています。地域の評価に関わるようなものなど出ししぼっている指標もあります。ただ、評価する上では必要な評価は持つておかないといけないと思いますので、どのような見せ方をするか別として、補助的な指標で持つておくこともできると思います。
- これまで各部局は自分の指標しか見ていませんでしたが、このシートを精査してまとめることで、施策ごとに自分の担当以外の指標も見ることができます。そういう意味ではこれからは多角的に評価できます。今までは自分の事業の評価だけしか見ていなかったもので、一方的な評価でした。これから 17 施策ごとに関係部局で集まって全体として評価していきますので、他の部局の指標も参考になります。
- 施策シートにつきましては、文章を書きこめるような形にしたいと思っています。事務局で一つ心配しているのは、施策ごとに文章の書き方がバラバラだろうということです。そこはきちんとまとめていこうと思っています。

**委員：**

- それはガイドラインを出さないのですか。

**事務局：**

- 施策によって違うと思うので、一律的なガイドラインは難しいです。そこは、どこかが全体的にまとめるべきかと思います。

**会長：**

- 各部署に評価を書く人は何人くらいいますか。20 人くらいですか。

**事務局：**

- 17 施策ごとなら、少なくとも 17 人はいます。

**委員：**

- 先日、書いた人同士がシートを交換して読み合うというワークショップをりましたが、とても効果的でした。他の人から書いたものがわからない、と指摘を受けて反省し書き直す、という自己啓発的なやり方もあります。

**事務局：**

- 行政目線で書いてしまいがちですが、市民から見たら全くわからないというのは本末転倒です。市民目線で文章を書けるよう対応します。

**会長：**

- 他にありますか。
- 最後に今後の予定を事務局から説明をお願いします。



## 6. 案件 5 「その他」

事務局：

- ・ 次回の審議会ですが、12月14日（金）18：30～20：30、第2庁舎3階会議室で開催します。
- ・ 内容は本日議論いただいた答申案をまとめて示したいと考えています。
- ・ 答申の日程は次回第4回審議会でお知らせします。

会長：

- ・ 次回の日程が決まりました。すべて終了しましたが何かありますか。

事務局：

- ・ さきほどの外国人の数ですが、最新のデータがなくて、平成24年で4600人でした。また最新のデータは第4回の時に示します。

会長：

- ・ 本日の案件については終了します。

以上